

6年連続で太鼓台同士の鉢合わせが発生している現状を踏まえ… vol. 3

先月号に引き続き、太鼓台の平和運行に向けた取り組みについてお知らせします。

昨年の秋祭りに関しては、市民や観光客からも、「毎年なぜ危険な鉢合わせが行われるのか」、「ルール無視の鉢合わせは恥ずかしい」、「鉢合わせがエスカレートしすぎており、このままでは死者が出かねない」などの厳しい意見が寄せられています。

太鼓台の鉢合わせも含め、事故などが発生すれば、主催者側が責任を問われる時代です。また、インターネット上の動画サイトには鉢合わせの映像や情報が多数アップされており、このような状況が続けば、新居浜市のイメージダウンにもつながりかねません。

▼新居浜市太鼓祭り推進委員会

祭りや太鼓台の運営そのものは、太鼓台所有の自治会などや各地区太鼓台運営委員会（協議会）にて行われていることは、先月号の特集でもお知らせしました。

このほか、秋祭りに関する組織としては、「新居浜市太鼓祭り推進委員会」があります。この組織は、これまで新居浜市太鼓祭りが新居浜市のイメージアップに大きく貢献してきた実情を鑑み、市内9地区の太鼓台運営委員会（協議会）を支援しながら、平和で楽しい親しみのある祭典とするともに、観光面に寄与させ、伝統ある民族文化行事として発展させることを目的としています。

また、この新居浜市太鼓祭り推進委員会は、秋祭りに関する

唯一の全市的な組織であることから、全市統一的な取り組みとして、太鼓台の平和運行に対しても、さまざまな方面から議論を行っていきます。

▼平和運行検討専門部会

その中で、昨年までに6年連続で太鼓台同士の鉢合わせが発生している現状を踏まえ、この推進委員会内に平和運行検討専門部会を設置し、事故のない楽しい秋祭り実現に向けた方策について、今年の2月から6月までに計4回の会合を重ね、検討を行ってきました。

その検討結果として、市や警

察、各地区太鼓台運営委員会（協議会）、各太鼓台運行主体（自治会、青年団など）の各方面別に方策案を出し、7月に太鼓祭り推進委員会会長に検討報告を行いました。

今後は、新居浜市太鼓祭り推進委員会において、この検討報告が具体的な方策として進んでいくよう、引き続き検討を行っていく予定です。

▼平和運行実現のために

先の平和運行検討専門部会の中で出た意見の一つに、市民や観覧者に関することとして、「鉢合わせをおおるような、また、期待するような言動や、インターネットなどへの書き込みをしない」、「鉢合わせの画像をインターネットなどに掲載しない、また、販売もしない」というものがありました。

また、ある部会員より、「昨年の鉢合わせを現場で見ているが、何年も祭りを見ているが、あんなに多くの人たちが押し寄せるのは初めてで、驚いた。そのくらい、鉢合わせを望んでいる市民も多くいるということだ



と思う」という話もありました。重さ約3トンの巨大な太鼓台は、統制を失えば動く凶器と化してしまい、ひとたび鉢合わせが発生すれば、負傷者の発生は避けられません。年に一度の祭りを楽しみに出かけて、負傷して帰ってくるとなると、結果として、本人も家族も悲しむことになり、せっかくの秋祭りが台無しになってしまいます。

祭りを観覧する皆さんには、太鼓台の鉢合わせを期待したり、それを拡散したりといった考えは改めていただき、秋空に舞う太鼓台の雄姿をお楽しみください。